

日本臨床検査医学会 平成 24 年度 第 1 回理事会 議事録

日 時：平成 24 年 2 月 18 日（土）14：30～18：45

場 所：日本臨床検査医学会事務所

出席者：村田満理事長、安東由喜雄副理事長、矢富裕総務理事、前川真人会計理事、
宮地勇人、米山彰子、村上正巳、~~ノ~~谷直人、佐守友博、尾崎由基男、藤田清貴、横田浩充、
渡邊直樹、各理事
一山智、高木康 各監事 （以上 15 名）

欠席者：北島勲、賀来満夫、和田隆志、田窪孝行、康東天 各理事（5 名）

会に先立ち、村田満理事長から新理事長としての抱負が述べられ諸問題解決に向けて、理事への協力依頼がなされた。主な内容としては、学術集会での機器展示のあり方、臨床検査専門医制度及び研修施設の整備、利益相反に関する規定の作成、より迅速かつ的確な情報発信等であった。

その後、理事、監事が自己紹介を行った。

尾崎理事より第 1 回理事会日程が変更となった経緯についての質問があった。これに対しては、両監事とも出席できないため、日程変更依頼があり、理事長判断で変更したことが回答されたが、定款、細則で理事会の成立についての記載がないため、今後、検討する必要があるのではないかととなった。

その後、米山彰子 理事、渡邊直樹 理事を 議事録署名人に指名して平成 24 年度第 1 回理事会の議事を進めた。

1 報告事項

1. 支部報告

各支部から平成 24 年度支部例会、総会、支部地方会の予定について報告された。

中国・四国支部からは 24・25 年度の支部理事として杉浦哲朗先生（高知大）を選出したことが報告された。

2. 各種委員会報告

1) 編集委員会（宮地勇人 担当理事、村上正巳 委員長）

編集委員の交代、優秀論文賞の選考日程、総説論文及び座長推薦論文依頼、東條尚子委員企画のトピックス「注目される新しい病態・疾患概念と臨床検査-呼吸器疾患編-」、投稿原稿の状況、編集顧問の基準の明確化、臨床病理の英文版発行の検討等について報告された。

前回理事会での検討事項を盛込んだ査読指針が提示され、承認された。

2) 臨床検査点数委員会（米山彰子 担当理事）

平成 24 年度診療報酬改定提案書で、当会からの 12 項目の提案のうち 6 項目、日本臨床検査医専門医会からの 12 項目の提案のうち 10 項目が優先度が高いと評価された結果が報告された。

3) 遺伝子委員会（横田浩充 担当理事、宮地勇人 委員長）

遺伝子関連検査に関するガイドラインの公表、作成状況、日本版ベストプラクティス・ガイドラインの項目と主な内容と取組み等について報告された。

4) 東日本大震災対策委員会（~~ノ~~谷直人 担当理事）

今回の震災支援の経験を踏まえ、被災地への対応のため、提言書を作成し、これを PDF ファイルで当会ホームページに掲載し、会員はダウンロードできるようにし、関係団体にも配布したいと報告された。冊子体での作成に関しては記録集の内容がまとまってから議論することとなった。

また、第 59 回学術集会（京都）で震災での活動報告を行う提案があり、学術集会のプログラム委員会に揚げていただくこととなった。

5) 国際委員会（渡邊直樹 委員長）

国際学会発表者に対する奨励金に関する規定について、国内開催の国際学会も該当するとしたこと、対象の学会を WASPaLM、ASCPaLM と限定しないことなどを加えた規定および申請書が提示され、承認された。

6) 検査項目コード委員会（佐守友博 担当理事）

JHAIS（保健医療福祉情報システム工業会）からの、医療情報の標準化について加入団体が利用するパンフレットにJLAC10、当会ロゴ、学会名ならびに理事長名の掲載依頼について報告され、審議の上承認された。

3. 第59回日本臨床検査医学会学術集会報告（一山 智 会長）

平成24年11月29日（木）～12月2日（日）に国立京都国際会館で、「臨床検査の再生」のテーマで開催予定であること、学術企画、委員会開催、会員サービス企画、広報企画等も含め、3月31日に平成24年度学術集会委員会を開催して、学術集会プログラム素案を最終確認をする予定であることが報告された。

4. 第60回日本臨床検査医学会学術集会報告（荏原順一 会長に代わり 矢富裕 総務理事）

平成25年10月31日～11月3日に神戸国際展示場で、荏原順一会長のもと開催予定であることが報告された。一山監事より、この集会での機器展示の見直し、開催地再考の可能性など、学術集会開催に対する学会の方針を早急に荏原会長に示すことが重要であるとの発言があった。

5. 第12回ASCPaLM報告（矢富裕 総務理事）

第59回学術集会中の平成24年11月29日（木）～12月1日（土）に京都国際会議場で、高橋伯夫会長の下、第12回ASCPaLM会議が同時開催される予定であることが報告され、開催趣意書などが提示された。

6. 理事会への委員会報告について（村田満 理事長）

理事会への委員会報告は、委員長から直接ではなく、担当理事から提出するように依頼がなされた。

7. 第58回学術集会への共催展示会助成金（分配金）600万円、特別会計から補填600万円、合計1,200万円の送金について（前川真人 会計理事）

昨年12月13日に、日本臨床検査自動化振興会より契約書のとおり共催展示会での助成金（分配金）として600万円の振込があった。昨年の臨時社員総会で、例年送金している1200万円を補助金として学術集会に送金することが決定していたため、当会特別会計から600万円を補填して合計1200万円を第58回学術集会へ2011年の内に送金を行ったことが報告された。

8. 酵素活性の単位U/Lへの統一について（前川真人 標準化担当理事）

前川真人理事に「ASTなどの酵素単位はIU/LかU/Lか、どちらが妥当か」という質問があったことについて、現在はU/Lをすべきも、これが普及しているとは言えず、広報活動を進めることが報告された。具体的には、標準化委員会Q&Aとして、会員にメール配信するとともにホームページに掲載する予定である。

9. 日本臨床検査医学会が後援する学術講演会（第20回信大臨床検査セミナー）の承認について（村田満 理事長）

平成24年2月5日（日）9:00～15:00、信州大学（旭総合研究棟9F講義室）で行われる「信大臨床検査セミナー」について、信州大学医学部附属病院臨床検査部から、従来通り、当学会が後援する学術講演会としての認定申請があり、日程が迫っていたため、常任理事会で検討して承認したことが報告された。

10. 日本専門医制評価・認定機構の「各診療領域における専門医に関する調査研究」説明会について（村田満 理事長）

1月10日に説明会が開催され、臨床検査制度検討委員会委員長の土屋達行先生が出席した。専門医制度の検討会が厚生労働省で開始され、その推進事業の一環として、当機構では専門医制度の標準化（専門医評価・認定、更新基準および研修施設評価基準の作成）を行う。そのために、各学会の認定研修施設のサイトビジットを実施するとともに、基本18診療領域の学会の専門医の登録状況、専攻医の登録状況を把握するため、今年度は、都道府県別、年代別、男女別の専門医数、そして専門医取得までの年数の調査を行うという報告された。当学会にも調査依頼があり、事務局で調べて回答することが合わせて報告された。

11. 日本医学会法人化についてのアンケートについて（矢富 裕 総務理事）

日本医師会が平成25年公益社団法人化を目指していることから、日本医学会でも今後のあり方について検討がなされ、分科のアンケート結果に基づき、一般社団法人化を進めることとなった。この場合、年間約9800万円程度の運営資金が必要となり、これを各分科会に会費負担いただくことになるため、一般法人化に賛成か反対か、賛成

の場合、どのような負担金抛出方法が可能かのアンケートがあった。これに対して、当学会からは、日本医学会の一般法人化については賛成で、日本医学会会員数（860,647人）で均等割りし各学会所属会員数に応じて抛出する方法を選び回答したことが報告された。

12. 平成24年度主な行事日程の予定について（村田満 理事長）

平成24年度の主な会議予定が報告され、確認が求められた。この中で、臨床検査管理医講習・認定試験の日程について2候補（各1日）が示されており、矢富理事より、早めに何れかに決定していただきたいことが申し入れられた。これについて、管理医講習での講師の1名がまだ決定しておらず、その方の都合によることが事務局から報告され、昨年の衛生検査所関連の講師の佐守理事からの推薦により、調整することとなった。

13. その他

東日本大震災に関連した平成24年度年会費の免除申請者について（矢富 裕 総務理事）

宮城県4人、青森県1人、岩手県1人、福島県4人、茨城県人7人、千葉県3人、栃木県1人、合計21名から申請があり全員免除を認定した。ただし、会費免除の対象は平成24年度分であるため、平成23年度以前の会費が未納の場合には、この完納確認後に会費免除の手続きを行うことが報告された。

II 審議事項

1. 平成24・25年度役員（案）について（村田満 理事長）

平成24・25年度役員の担当と担当する委員会について、昨年12月17日の第5回理事会で承認されていたものに加え、あらたに中国・四国支部理事として杉浦哲朗先生が選出されたことが報告された。昨年11月17日の臨時社員総会で承認を得ていない、病理担当の野島孝之先生、関東甲信越支部理事の本田孝行先生、中国・四国支部理事として杉浦哲朗先生については、3月31日の定時社員総会で承認を得る予定であることが報告され、承認された。

2. 平成24・25年度各種委員会委員長、委員（案）について（村田満 理事長）

平成24・25年度委員会委員長および委員（案）について、昨年12月17日の第5回理事会で承認されていたものも含め、委員会委員名簿（案）が提示され、承認された。

高木監事より、平成26・27年度の臨床検査専門医試験実行委員長がまだ決定していないため、早急に決定し、試験委員会委員として実際の認定試験に携われるようにするのが望ましいと意見があり、村田理事長から高橋伯夫試験委員長に相談したうえで、持ち回りの審議会で早く決定したいと回答された。

3. チーム医療WGの設立について（村田満 理事長）

昨年12月17日の第5回理事会で、諏訪部章前理事より、チーム医療に関する活動について学会としてとり挙げて頂きたいとの要望があり、常任理事会で検討したうえでチーム医療WG設置の提案がなされた。

諏訪部先生からは、臨床検査自動化学会でも同様の委員会が活動していたが、当学会では、1)学術的な面として、糖尿病やNST関連の新しいマーカーの発掘や開発、2)保険点数に反映されるような活動、3)啓発活動、4)良質な医療の実現に対する貢献度の検証などを目的として活動してはいかかとのことであった。諏訪部先生ご自身は委員長は別の先生にとのことであったが、目的が見えている諏訪部先生に委員長をお願いするのがよいとの意見が主であった。そのうえで、米山理事に担当理事就任の依頼がなされ、WGを組織することが承認された。

4. 関連団体への派遣役員について（村田満 理事長）

昨年12月17日の第5回理事会で承認済みの平成24年度からの派遣委員一覧が提示された。ただ、JCCLS理事1名と臨床検査振興協議会理事2名については、12月17日の第5回理事会後に候補者が辞退されたため、あらたに、JCCLSの理事候補として宮地理事、臨床検査振興協議会理事として常任理事の安東副理事長と前川理事が常任理事会から推薦された。佐守理事から、臨床検査振興協議会は診療報酬に関連する要望において大きな役目を果たしているため、それに精通しておられる米山理事の推薦があった。これについては、今回は早急な対応が必要なため、今回は提案通り常任理事4名として、次年度に再検討してはと村田理事長から提案があり、承認された。

高木監事から、認定輸血検査技師制度協議会の資格審査委員を、長年務めているため辞退したいと申し入れがあった。本委員の役割を考慮すると血液が専門の先生が望ましいことであり、後日、高木監事から推薦することとなった。

5. 臨床検査専門医制度規定の一部改定について（村田満 理事長）

臨床検査専門医の受験資格で会員歴は問わず研修歴のみを問うことになったことに関連して、米国の臨床病理医認定試験合格者およびそれと同等とみなされる外国の臨床検査専門医の認定資格を有する者についての会員歴および研修歴について、2. (3)「日本における研修歴については、満 2 年以上とする。」と改定すること、そして、認定更新制度規定 5. (4) 平成 15 年以降に、初回の認定更新を受けるものは、単位に、F. 日常業務での報告書(20 編)を「含むことが望ましい」を「含むこと。」と改定することについて提案され、承認された。

6. 評議員の再任について（村田満 理事長）

評議員再任審査結果について、単位を満たした方 56 名は再任が承認された。単位不足者 1 名、書類未提出者 3 名については、次回、理事会までに該当の支部長に確認をしていただくこととなった。

7. 東日本大震災対策費用、特別会計から一般会計への組み入れについて（前川真人 会計理事）

平成 23 年度の東日本大震災対策費用は、平成 23 年末日時点で総計約 320 万円（3,176,318 円）であるが、突発的な事例であるため、一般会計からではなく特別会計から支出することが提案された。高木監事から税金の申告の際に不利になるのではないかとのご意見があったが、申告の際には合算するため問題がないことを確認し、承認された。

8. 学術集会時の機器展示(臨薬協展示・協賛事業部会との話し合い)について（村田 満 理事長、尾崎由基男 渉外担当理事、安東由喜雄 渉外委員長）

まず、村田理事長から、日本臨床検査自動化振興会を退会した会社を中心となり組織した日本臨床検査薬協会学会展示・協賛事業部会での学会展示・協賛に関する検討の経緯、事業部会および企業団体の動向が、また、尾崎理事から 1 月 27 日に行われた臨薬協の連絡会での状況が、それぞれ報告されたうえで協議された。

本年度の機器展示は、全体として統一することは難しく、日本医学検査学会、日本臨床検査自動化学会、日本臨床検査医学会での 3 学術集会において企業的意思による参加となる見込みである。第 59 回日本臨床検査医学会学術集会（京都）は、臨薬協展示・協賛事業部会が組織して学術集会事務局と協力して行う予定であり、分配金に関しては例年通りとはいかないかもしれないが、ある程度は保障されると思われる。統一した機器展示会となるまでには、数年の期間がかかると思われ、本年はその過程での開催となることは避けられないが、重要なことは、第 59 回学術集会が成功裏に終了することであり、理事会としては、それを目的として協力していくこと、また、日本臨床検査自動化学会のあり方について、学会としては静観するスタンスでいくことが確認された。そして、第 59 回学術集会で機器展示を行うにあたっては、当学会から、学術集会長名で日本臨床検査薬協会学会展示・協賛事業部会に協賛依頼書を発行することが合意された。

なお、第 60 回学術集会（荏原順一会長）での機器展示のあり方に関して、早急に協議・対応すること、将来の機器展示についても継続審議していくこととなった。

9. 監事から常任理事会への提言について（村田満 理事長）

高木康監事から以下の点について質問と提言があったことが報告された。

1) 平成 23 年 12 月 17 日の理事会が新旧で行われなかった経緯について：

本来、新旧交代理事会での開催予定であったが、前理事長のご意向、また、新理事、監事では決定の権利がないため、旧理事、監事で開催したいとなったことが報告された。

2) 臨床検査振興協議会への理事派遣については常任理事が選出されるべきである：

4. 関連団体への派遣役員で審議済み。

3) 委員会委員は現役としていただきたい：

細則により委員会委員については当会会員、ただし委員長が必要に応じ会員以外から若干名を推薦できるとなっているが、法人化されていることもあり、委員はなるべく会員から選出すること、あるいは、非会員の場合にはできるだけ会員登録していただくこととなった。また、会則改定委員会でも再度検討していただくこととなった。

4) 学術集会時の機器展示については賛助金のこともあり、早急に結論を出してほしい：

8. 学術集会時の機器展示(臨薬協展示・協賛事業部会との話し合い)についてで、協議済み。

5) 情報公開について

一部の役員、常任理事会、理事会での協議内容などが、公開すべき場所で公開されていないことが多々見られることがあったため、それを是正してほしいという意見が理事より多くあった。

また、常任理事の選出方法について、指名理事ではなく選挙理事からの選出が望ましいのではないかと、しかし、それは望ましいがそれに縛られなくてもよいのではないかとという意見も出された。本件も会則改定委員会で検討することとなった。

10. 理事会議事録の公開方法について（村田 満 理事長）

現在、理事会の議事録ではなく、議事録に報告された資料を追加した「理事会だより」を臨床病理誌とホームページに掲載しているが、理事会終了後、早く確認したい方もおられると思われるため、議事録署名人のサイン後にそのままの形で、差し当たり、ホームページに掲載することとなった。

また、議事録の確認については、常任理事、議事録署名人に加えて監事にも確認をお願いすることとなり、まず、常任理事と監事に送り、その後、議事録署名人に確認をしていただくこととなった。

11. 日本糖尿病学会からの「適正な HbA1c の運用と精度管理に関する機構設置のお願い」について（村田 満 理事長、矢富 裕 総務担当）

日本糖尿病学会では、2012年4月1日より HbA1c の NGSP 値標記を開始する。HbA1c の JDS 値から NGSP 値への移行が、機器・試薬メーカー、病院、検査所で遅滞なく行われ、測定精度が維持、向上されることが糖尿病診療にきわめて重要であり、この目的達成のため、日本糖尿病学会から、2月6日付の文書で、日本医学会分科会である当会に HbA1c の国際標準化の適正性、メーカー、施設での精度管理を管理、評価する機構設置の依頼があった。常任理事会の意向としては、日本臨床検査標準協議会、日本臨床化学会の理事長の承諾を得ていることであり、検査の基幹学会である当学会としては機構設置依頼を検査側の代表として受けるべきとの判断が示された。その是非について協議されたが、受けることとなった。機構の長に関しては、標準化担当の前川先生を含む常任理事に一任された。関連団体からも委員を推薦していただき検討していくのがよいのではないかととなった。

また、標準化委員会内に、今後、その他の検査項目で標準化が必要な場合には、対応できる組織を設置しておくべきとなった。

12. HPLC リポ蛋白定量法の早期保険収載に関する要望書提出について（村田 満 理事長、米山彰子 理事）

東京慈恵会医科大学吉田博先生と東ソー株式会社で共同開発された「イオン交換クロマトグラフィによるリポ蛋白分析測定」について薬事承認がとれ、保険収載のための準備が厚労省との間で進んでおり、その過程で、関連学会から保険収載の要望書が必要であることから、当学会からの要望書提出のお願いがあった。協議の結果臨床検査点数委員会厚労省への要望書提出の可否について検討していただくこととなった。また当学会の利益相反に関する規定が整備されていないため、早急に整備することになった。

13. 日本慢性腎臓病対策協議会からの講演会ご案内について（矢富 裕 総務理事）

日本慢性腎臓病対策協議会（J-CKD）から、世界腎臓デーに合わせた CKD 啓発イベント「ストップ・ザ・腎不全：～地域ごとの CKD 対策実践に向けて～」講演会のご案内が当学会宛にあり、当学会としての参加と、参加の場合に参加していただく先生について協議された。当会として参加することとなり、参加していただく人選については、常任理事会に一任された。

14. 事務局職員複数体制、職務規定等について（村田 満 理事長）

12月17日の第5回理事会で議題となっていた職務規定、退職金規定の整備、事務局の複数体制について諮られ、規定は常任理事会で作成することとなり、あらたな事務員としてはエフォート率0.5程度で採用することとなり、採用についても常任理事会で行っていくこととなった。あらたな事務員は、関東甲信越支部幹事会での承認後に、関東甲信越支部の業務も一部負担することについて了承が得られた（時間分の人件費を関東甲信越支部が負担する）。

15. その他（村田 満 理事長）

1) 理事会議事における「懇談事項（仮称）」の設立について

情報公開を進める意味合いもあり、理事会で報告事項とも審議事項ともならない事項について、懇談事項を設けて協議する提案があり承認された。

2) 医師国家試験委員の派遣について

現時点、当会から委員が派遣されていないため、次回以降検討していくことで承認された。

3) 平成 26・27 年度試験実行委員会委員長について（東京）

2. 平成 24・25 年度各種委員会委員長、委員（案）についてで、検討されたとおり。

4) 3/31 の定時社員総会で承認される支部理事、病理担当理事を、3/31 の理事会に陪席いただくことについて諮られ承認された。

次回理事会、定時社員総会の予定（矢富 裕 総務理事）

第 2 回理事会：3 月 31 日（土）正午～15：00：学士会館

定時社員総会：3 月 31 日（土）15：30～16：30：学士会館

V 閉会の挨拶（安東由喜雄 副理事長）

安東由喜雄副理事長がすでに退席されていたため、村田満理事長から閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

以 上

議事録署名人

米山 彰子 
波邊 直樹 